

新基地建設反対名護共同センターニュース

完成見込みもない工事を強行する菅政権

K9 護岸では台船からダンプに赤土を積み込むダンプが数珠つなぎで待機している



K9 護岸では台船から赤土を積み替える 10 数台のダンプが待機

全長 50 メートルのデッキパージ船

↑ランプウェイ台船 8 隻分の土砂を積載できる 12,700 トンの巨大な台船

名護共同センターのスタッフは2月16日(火)、抗議船・平和丸(仲本興真船長)に乗船。辺野古沿岸へ大浦湾へK9護岸まで約1時間半、現場を視察しました。8時30分、辺野古漁港出港。護岸を消波ブロックなどで6メートル以上かさ上げしているK2護岸へ。K8護岸では赤土をピラミッドのように積み上げた台船からダンプカーが辺野古側の埋立区域に運んでいます。大浦湾では5隻の大型運搬船や赤土を山積みした台船、デッキパージ船など確認。K9護岸では、台船2隻が着岸し赤土をダンプに積み替え、辺野古の海に運んでいます。20台ほどのダンプカーが数珠つなぎで待機しています。政府・防衛省は大浦湾の軟弱地盤の改良工事が不可能で完成の見込みもないのに、浅瀬の辺野古側の工事を強行し、県民に諦めさせようとしているだけです。工事は完成せず「残されるのは環境破壊だけ」は許すことはできません。

工事現場の写真です(2月16日撮影)



K4 護岸

K8 護岸

現在土砂投入中



K4 護岸の中央部



K2 護岸



K3 護岸から K4 護岸を望む地点

コロナ禍でも防衛局政府は連日生コン車など 200 台ほどを基地に入れ、基地内で加工し K2~K4 護岸を約 6 メートルの高さまでかさ上げ工事を強行しています。K8 護岸と K9 護岸では台船から赤土をダンプが積み替え、埋め立て作業を続けています。この日、大浦湾には土砂の運搬船 5 隻とデッキパージ船やランプウェイ台船 5 隻が停泊し、3 隻の台船には山のように違法な赤土が積み込まれていました。

許されない「残るのは環境破壊だけ」

遺骨含む土砂を辺野古に投入するな 宗教者らが沖縄県に要請



辺野古新基地建設で沖縄県南部の沖縄戦の遺骨を含む可能性がある土砂を埋め立てへの使用計画をしている問題で宗派を超えた宗教者らが15日、沖縄県庁を訪れ「県南部の土砂採取と乱開発、環境破壊の中止を」と要請しました。「平和をつくり出す宗教者ネット」の武田隆雄さんは「遺骨を含む可能性のある土砂を使うことは人道上許されない」と語りました。(しんぶん赤旗 2/16 より)

「本部の山が泣いている！」

写真は1月28日、名護湾の対岸・恩納村から撮影した本部半島の姿です。2年ほど前までは小さな富士山型の緑に覆われた山がありましたが、無残にも掘り崩され茶色い山肌が露わになっています。政府・防衛省は、山を壊した土砂を辺野古・大浦湾に投入し、環境破壊の連鎖を続けています。地元の住民は「本部の山が泣いている」、「辺野古・大浦湾の海も死にかけている」と語っています。

